

行政評価調査

事務事業名	ヒューマンライフシンポジウム	評価初年度	平成 29 年度
実施主体	水戸市	担当部署名	市民協働部男女平等参画課
第6次総合計画上の施策項目		コード	事業の根拠法令等
大項目	市民と行政との協働による自主・自立した「みと」づくり	4	種類 1. 法令 2. 条例・規則 3. 要項 4. 計画等 5. 特になし 1, 2, 4 名称 男女共同参画社会基本法16条, 水戸市男女平等参画基本条例14条, 水戸市男女平等参画推進基本計画 (第2次)
中項目	市民の多様な活動の推進	1	
小項目	男女平等参画社会に向けた活動の推進	5	

1 事業の概要、目標

①事業の開始時期	H4 年度	②事業の完了予定の有無 (有/無)	無 年度
③事業の概要 (概要) 多くの市民がともに語り合い、ともに考えることにより、さらなる女性の地位向上及び男女平等参画社会の形成に向けての具体的な方策を考えるシンポジウムとする。また、あわせて男女平等参画に関する取組を推進した個人、団体、事業者の表彰式を実施することにより、多くの市民に、男女平等参画推進に関するロールモデルを周知することにより、男女平等参画社会実現のための機運を高める機会としている。 (主催) 水戸市 (委託先) 特定非営利活動法人M・I・T・O21			
④事業の目的			
ア【対象】誰を(何を)対象に 市民		対象者(平成29年4月1日) 約27万人	
イ【理想像】どのような状態にしたいのか。 シンポジウムを開催することにより、男女平等参画について広く市民及び事業者等の理解と関心を深めるとともに、男女平等参画推進に関する活動や取組が積極的に行われるようにする。			
⑤成果指標 (市民の視点による目的の成果を示す指標。理想像を数値化したもの。)			
成果指標1			
指標	シンポジウム参加者数	説明	各年度におけるシンポジウムの参加者数
成果指標2			
指標	参加者へのアンケート調査での満足度結果	説明	参加者を対象にしたアンケート調査において、シンポジウム内容の満足度を示した割合
⑥手段 【手段】どのような手法により実施するのか。 水戸市が主催となり、シンポジウムの開催に当たって、参加申込受付以外の主たる業務について、業務委託を行っている。(委託先) 特定非営利活動法人M・I・T・O21			
⑦必要性 【必要性】どうして必要なのか。 多くの市民や事業者等に対し、あらゆる場における男女平等参画の取組を推進するため、ともに考える機会を提供するため、毎年9月を水戸市男女平等参画推進月間として啓発活動を行っている。本シンポジウムは月間事業のメイン事業の位置付けであり、より多くの市民の方に参加いただき、男女平等参画推進に向けての市の取組状況や情報提供を発信する場として定着している。例年、シンポジウムに参加された方の7割から8割の方からは、講演内容について満足度が高いとの評価をいただいている。			
⑧有効性 【有効性】どうして有効なのか。 シンポジウム参加者数が増加傾向にあり、また、参加者アンケートにおいても、内容の満足度割合の数値は高まっている。このことから、男女平等参画の課題や問題については、普段から身の回りであっても、見えづらく、分かりにくいことが多いため、男女平等参画に関するポイントを分かりやすい視点でとらえて、本市から市民に向けて発信する場であるシンポジウムは有効である。また、市民の主体的な活動を促進する上で有効である。			
⑨類似事業 (民間における類似事業、市が実施している類似事業) 類似事業なし			
⑩他の主体が実施した場合の効率性についての考察 (市直営⇒民間・NPO, 実行委員会⇒市直営, 民間・NPO) 当シンポジウムは、平成4年から実施し、今年で25回目になるが、実行委員会が実施していた経緯があり、平成19年からは、現在のM・I・T・O21に業務委託をすることによって、効率化を図った。			

2 成果指標（事務事業の実績）

指標名	成果指標 1 シンポジウム参加者数（人）			成果指標 2 参加者へのアンケート調査での満足 度結果（満足と回答した割合）		
	目標	実績	達成率(%)	目標	実績	達成率(%)
26年度	270	303	112.2	70	73	104.3
27年度	300	246	82.0	75	79	105.3
28年度	300	283	94.3	80	84	105.0
29年度	300	271	90.3	80	79	98.8
30年度	300			80		
31年度	300			80		
①目標値の根拠	会場の定員数			課内方針		
②数値で表せない効果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体の支援・育成 ・市民の意識高揚 					

※目標年度の数値は、必ずしも市の方針として決定したものが記されているわけではありません。

3 行政コストの推移（補助事業の場合は、内訳を別紙1で作成すること。）

	①行政コスト（千円）				②単位当たりの行政コスト （①行政コスト／成果指標1）（円）
		予算内訳（千円）	設計額内訳（千円）		
H 26	予算 1,460	国県支出金	旅費		4,818.48
		市債	報償費		
		その他	需用費		
		一般財源 1,460	役務費		
			委託料 1,460		
			使用料・賃借料		
			その他		
H 27	予算 1,460	国県支出金	旅費		5,934.96
		市債	報償費		
		その他	需用費		
		一般財源 1,460	役務費		
			委託料 1,460		
			使用料・賃借料		
			その他		
H 28	予算 1,460	国県支出金	旅費		5,159.01
		市債	報償費		
		その他	需用費		
		一般財源 1,460	役務費		
			委託料 1,460		
			使用料・賃借料		
			その他		
H 29	予算 1,460	国県支出金	旅費		#DIV/0!
		市債	報償費		
		その他	需用費		
		一般財源 1,460	役務費		
			委託料 1,460		
			使用料・賃借料		
			その他		
H 30	予算 1,353	国県支出金	旅費		
		市債	報償費		
		その他	需用費		
		一般財源 1,353	役務費		
			委託料 1,353		
			使用料・賃借料		
			その他		

③コスト削減の取組

シンポジウム参加者からの要望が高い託児の受入れ人数枠を4名から20名に増やすため、これまで作成していたヒューマンライフシンポジウムの記録集を、平成29年度からは取り止める等、予算総額の増額を抑制した。

4 1年目評価

(1) 1次評価 (内部評価) ※各担当課による評価

ア 評価シート

該当する場合は、○を付けること。

必要性		各項目1点とする。ただし、①は無条件で4点とする。	評価調査の確認箇所	理由等所見欄
		①法令により市が実施することが義務付けられている事業又は市民の生命・財産を守るため、市が実施することが必要不可欠な事業である。	・事業の根拠法令等 ・1-④事業の目的 ・1-⑦必要性	
○		②「①」に該当しないが、法令により実施することを期待されている事業又は条例により実施することとされている事業である。	・事業の根拠法令等 ・1-④事業の目的 ・1-⑦必要性	男女共同参画社会基本法第16条、水戸市男女平等参画基本条例14条
		③対象者の基本的な生活の維持・確保に必要な事業又は行政内部の管理上必要な事業である。	・1-④事業の目的 ・1-⑦必要性	
○		④対象者のニーズが高い事業である。	・1-⑦必要性	男女平等参画社会に向けた啓発活動の機会であり、参加者の満足度は高く、対象者のニーズが高い事業である。
○		⑤民間、NPO等に類似事業はない。	・1-⑨類似事業	男女平等参画に関する取組を推進した個人、団体、事業者を表彰し、男女平等参画に対して分かりやすい視点から広く一般市民を対象とした講演会を実施する類似シンポジウムは、民間、NPO等にはない。
合計			評価結果	A
3	点			
有効性		各項目1点とする。ただし、①は無条件で4点とする。	評価調査の確認箇所	理由等所見欄
		①成果指標の目標値が最大値となっており、かつ、実績が目標値に達している。	・2-成果指標	
○		②市民生活上又は行政内部の管理上有効である。	・1-⑧有効性 ・2-成果指標	男女平等の課題を分かりやすく市民に伝えるとともに、市民の主体的な活動を促進するために、イベントの継続が有効である。
		③成果指標の実績が目標に達している。	・2-成果指標	
○		④対象者のうち、実際にサービスを受ける者が、特定の者に偏っていない。	・1-④事業の目的	広く市民に周知し、全市民を対象としている。
○		⑤事業の目的を達成するための手段が適切である。	・1-⑥手段 ・別紙2 イベント詳細シート	男女平等参画を推進する市民団体に業務を委託しており、手段が適切である。
合計			評価結果	A
3	点			
効率性		各項目1点とする。ただし、①は無条件で4点とする。	評価調査の確認箇所	理由等所見欄
		①効率性向上の余地はない。	・3-①行政コスト ・別紙1 事業費内訳	
○		②コスト削減への取組を実施している。	・3-③コスト削減の取組	毎年度、事業内容を精査し、必要な項目に予算を配分して取組んでいる。
○		③他の主体が実施するよりも効率的である。	・1-⑩他の主体が実施した場合の効率性についての考察	経験豊富な市民団体に事業を業務委託しており、シンポジウム運営のノウハウも兼ね備えることから、スムーズな運営を図ることができる。
○		④市の事務事業で類似したものはなく、他の事業と統合することは難しい。	・1-⑨類似事業	男女平等を主題とした大規模啓発事業は、他にないことから統合すべきものがない。
○		⑤成果指標の単位当たりの行政コストは前年度より低くなっている。	・3-②単位当たりの行政コスト	来場者1人当たりの行政コストは低くなっている。
合計			評価結果	A
4	点			

事務事業の評価

イ 評価結果

①今後の方向性	1	⇒ うち「見直しの上で継続」の場合の今後の方針
方向性		
1 現状のまま継続		
2 見直しの上で継続		
	ア	主体を代える（実施主体を代える）
	イ	手段を改善する（実施の手段を代える）
	ウ	効率化を図る（単位当たりのコストを下げる）
	エ	簡素化する（規模を縮小する）
	オ	統合する（類似事業を統合する）
3 休止、廃止		
②課題と解決方法（「見直しの上で継続」及び「休止、廃止」の場合、記入する。）		

(2) 2次評価(外部評価) ※ 行政評価委員会による評価
委員会による意見

今後の方向性	見直しの上で継続（手段を改善する）
<p>評価する点、改善すべき点</p> <p>ヒューマンライフシンポジウムは、市が実施主体となり、男女平等参画社会の形成に向けた意識啓発を目的として開催されているイベントである。</p> <p>本イベントについては、男女平等参画の推進に向けて、市の取組状況や情報発信の場として、また、男女平等参画に対する理解と関心を深める場として有益であるとともに、運営についても、NPO法人に業務委託し、効率化を図っており、おおむね評価できるものである。</p> <p>しかしながら、イベントの開催も本年度で25回目となり、テーマに目新しさがなくなってきているとともに、講演名から男女平等参画というメインテーマが伝わりにくいことから、シンポジウムの目的を再確認し、さらに魅力のある内容となるよう検討するべきである。</p> <p>また、参加者へのアンケート結果によると、参加者の年代は、50歳代以上が約85パーセントを占めているが、未来に向けた男女平等参画社会の実現に向けて、20歳代から40歳代の市民の参加も不可欠である。今年度については、若者の参加を積極的に促しているとのことであるが、今後は、企画段階から、テーマの設定、講演者の選定及びイベントの周知方法について工夫するべきである。</p> <p>さらに、現状において参加者の多くが50歳代以上であることを踏まえると、託児所を縮小し、託児所に係る費用を抑える代わりに駐車場代を負担することや、託児所を設置しなくても子どもと一緒に参加できる会場づくりなどについても検討するべきである。</p> <p>業務委託先であるNPO法人についても、メンバーの高齢化が進んでいるため、持続可能な運営に向けて、当該事業の運営の担い手を育成するべきである。加えて、写真展についても応募者が少ないため、より多くの方から応募してもらえるような取組が必要である。</p> <p>このようなことから、更なる改善を進めていく必要があるため、1次評価の「現状のまま継続」ではなく、「見直しの上で継続（手段を改善する）」とする。</p>	

(3) 3次評価(総合評価) ※ 行政改革推進本部による評価

今後の方向性	見直しの上で継続(手段を改善する)
<p>ヒューマンライフシンプोजウムは、市を実施主体とするイベントである。男女平等参画の推進に向けて、市の取組状況や情報発信の場として、また、男女平等参画に対する理解と関心を深める場として有益であるとともに、運営についても、NPO法人に業務委託し、効率化を図っており、適切に実施されている。</p> <p>しかし、行政評価委員会からの意見にあるとおり、テーマに目新しさがなくなってきたとともに、講演名から男女平等参画というメインテーマが伝わりにくいことから、シンポジウムの目的を再確認し、さらに魅力のある内容となるよう検討する必要がある。</p> <p>また、参加者の年代は、50歳代以上が約85パーセントを占めており、未来に向けた男女平等参画社会の実現に向けて、20歳代から40歳代の市民の参加を促す必要がある。今年度については、若者の参加を積極的に促した結果、40歳代までの参加者が約半数を占めた。今後は、企画段階から、テーマの設定、講演者の選定及びイベントの周知方法について工夫していく必要がある。</p> <p>さらに、業務委託先であるNPO法人は、メンバーの高齢化が進んでいるため、持続可能な運営に向けて、当該事業の運営の担い手を育成する必要がある。加えて、写真展についても応募者が少ないため、より多くの方から応募してもらえるような取組が必要である。</p> <p>このようなことから、「見直しの上で継続(手段を改善する)」とする。</p>	

※ 2次評価における意見について

① 託児所の縮小について

本シンポジウムにおいて、これまで50歳代以上の参加者が多かったことを踏まえ、若い世代(子育て中の方を含む。)の参加者の増加を促すため、今年度から講師の選定のほか、託児を4人定員から20人定員へと大幅に増やして実施した。その結果、本年のシンポジウムでは、11人の託児申し込みがあり、子育てをしている若い世代の参加を促す効果があったものと考えている。

② 駐車場代の負担について

当シンポジウムや他の当課主催事業等の参加者には、みと文化交流プラザが中心市街地に立地することから、公共交通機関の利用をきめ細かくお願いしている。これまで近隣の有料駐車場利用に対してのクレームなども無く、参加者からは、御理解をいただいているものと認識している。駐車場代の負担は、本市における他のイベントや事業への影響を考慮していくことが必要になるものと思われる。

③ 子どもと一緒に参加できる会場作りについて

当課で実施した別事業において、実験的に導入したことがあり、子どもと一緒に参加できない方から「講演等に集中できない」などの御意見をいただいたことから、現在のところ託児の形式のみでの実施にしている。今後、幅広く多世代の方を参加者として想定する本シンポジウムにおいて導入する際は、講師をはじめ、参加をいただく方全員が満足していただけるよう十分な工夫や検討をしていく。

改善目標 (又は休止、廃止の方向性)	<p>男女平等参画の趣旨及び講演テーマの新しさに留意しながら、テーマ設定、講演者の選定、イベントの周知及び募集方法を検討する。特に20歳代から40歳代の市民の参加を促す。</p> <p>事業委託先のNPO法人において持続可能な運営が可能となるよう、担い手の育成を促す。</p> <p>写真展は、応募者の増加に向け、具体的なテーマを設定するなど手法を改善する。</p>
-----------------------	---

6 2年目評価(進行管理)

(1) 1次評価(内部評価)

○見直しの状況など事務事業の現況
<p>本市において、2019年いきいき茨城ゆめ国体が開催されること、また、水戸市男女平等参画基本条例においては、スポーツ・レクリエーション活動の場においても、男女平等参画社会の達成に努めるものとされている。国においても2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、スポーツにおける女性の活躍と男女の健康支援に着目している。これらのことからスポーツの視点からの男女平等参画社会の実現を多くの市民と考えることを目的として、テーマ設定を行った。講師の設定においては、国体推進局と連携し、オリンピックフェンシング銀メダリストであり日本スポーツ界の若者を牽引していく太田雄貴氏を講師とした。講師には、これまでの経験を基にスポーツ界における女性活躍の現状や若い世代が活躍できるよう、ワーク・ライフ・バランスの意識改革やLGBT等について、広く市民に対しメッセージをいただく。イベント周知方法については、特に若い世代の参加を促すために、今までの広報誌及びチラシに加えてSNSを活用した。また、広報紙とチラシにQRコードを添付し、パソコンやスマートフォンから手軽に申込できるようにした。</p> <p>事業委託先のNPO法人の担い手の育成については、水戸市男女平等参画センターの登録団体の中でも若い世代の団体と連携し、企画運営の段階から一緒に活動した。また、大学生に対しボランティアを募り、イベント周知及びイベント当日の運営においても、大学生の参加協力をしてもらえる体制づくりをした。</p> <p>写真展については、具体的な作品テーマを設定し、応募者により分かりやすく写真展の趣旨を伝える改善を図った。</p>

今後の方向性	
○特記事項（行政評価委員会からの指摘事項など）	

(3) 3次評価(総合評価)

今後の方向性	
○特記事項（行政改革推進本部からの指示事項など）	

7 2年目改善目標（2年目評価で見直しを指摘された場合に記入）

改善目標 （又は休止、廃止の方向性）	
-----------------------	--

8 3年目評価(進行管理)

(1) 1次評価(内部評価)

○見直しの状況など事務事業の現況

(2) 2次評価(外部評価)

今後の方向性	
○特記事項（行政評価委員会からの指摘事項など）	

(3) 3次評価(総合評価)

今後の方向性	
○特記事項（行政改革推進本部からの指示事項など）	

9 3年目改善目標（3年目評価で見直しを指摘された場合に記入）

改善目標 （又は休止、廃止の方向性）	
-----------------------	--

(別紙1-②)事業費内訳(委託事業)

(予算)

科目	金額(円)					増減(29-28年度)	増減理由
	26年度予算	27年度予算	28年度予算	29年度予算	30年度予算		
1 委託料	1,460,000	1,460,000	1,460,000	1,460,000	1,353,000		
2 寄附							
3 イベント協賛							
4 参加費							
5 商品売上							
6 諸収入							
合計	1,460,000	1,460,000	1,460,000	1,460,000	1,353,000	-	

(設計額)

科目	金額(円)					増減(29-28年度)	増減理由
	26年度予算	27年度予算	28年度予算	29年度予算	30年度予算		
1 報償費	694,000	700,000	800,000	940,000	980,000	140,000	女性の参加率が高い中、男性や若者世代にも積極的に参加いただく広い集客を目指し、男女平等参画推進に向けて、効果的な事業実施を図ることができる講師を招くため。
(講師謝金, 司会, 手話通訳者等)							
2 消耗品費	90,000	100,000	100,000	100,000	80,000		
(看板, 花代等)							
3 食糧費	26,000	50,000	60,000	60,000	40,000		
(係員賄等)							
4 会議費	-	30,000	10,000	20,000	15,000	10,000	
(会議に伴う諸経費)							
5 印刷製本費	400,000	350,000	350,000	160,000	113,800	-190,000	
(ポスター, チラシ, 記録集他)							
6 通信運搬費	40,000	40,000	50,000	50,000	30,000		
(案内チラシ等発送)							
7 筆耕翻訳料	73,000	50,000	65,000	-	-	#VALUE!	
(速記料)							
8 託児等謝金	-	-	-	75,000	40,000	#VALUE!	
(シルバー人材センター)							
9 使用料及び賃借料	137,000	80,000	10,000	40,000	40,000	30,000	開催場所の変更のため(予算上はH28年度から変更予定であったが、実際はH27年度から変更)
(会場使用料, 駐車料)							
10 手数料	-	4,000	5,000	5,000	5,000		
(送金手数料)							
11 予備費	-	55,500	9,500	9,080	9,200	-420	参加者駐車場負担の廃止
(保険料等, その他)							
合計	1,460,000	1,459,500	1,459,500	1,459,080	1,353,000	-	

(別紙2) イベント詳細シート

イベント名 ヒューマンライフシンポジウム

(実施主体等との関与の状況)

実施主体等	関与の形態	具体的な役割
水戸市	主催	本部、舞台設営・運営、受付、表彰式、広報等
NPO法人M・I・T・O21	委託先	本部、会場設営、舞台設営及び運営、受付及び会務案内、記録、講師出演依頼等、ポスター等作成、広報活動、その他シンポジウム運営に関すること

(イベント当日の運営に係る職員) ※ 平成29年度実績 (開催日：9月30日)

	人数	主な業務
市職員	7人程度	本部1人、舞台運営2人、表彰式2人、広報等1人、講師接待1人
委託団体	36人程度	本部3人、進行及び舞台運営8人、駐車場2人、講師接待3人
シルバークン材センター	5人程度	記録4人、受付及び会場案内11人、救護係1人、場内整理2人、庶務2人
計	48人程度	託児係5人

(イベント開催までのスケジュール) ※ 平成29年度実績

年月	内容
平成29年6月	主催者からの開催概要説明
平成29年6月	第1回企画・運営委員会(全体テーマ、講師等検討、担当別役割分担決定)
平成29年6月	第2回企画・運営委員会(全体テーマ等決定、講演形式決定、講演出演依頼、ポスター等検討)
平成29年7月	第3回企画・運営委員会(ポスター、チラシ発注、広報みと原稿案、マスコミ等取材依頼)
平成29年8月	第4回企画・運営委員会(ポスター等納品、開催通知発送、プログラムの検討、講師打合せ)
平成29年8月	第5回企画・運営委員会(全体スケジュール決定、託児手話通訳者依頼、進行表作成等)
平成29年9月	第6回企画・運営委員会(最終確認、当日の係準備と確認、プログラム納品)
平成29年9月	シンポジウム前日準備(各係の最終打合せと確認、配布資料の準備、看板類設置)
平成29年9月	ヒューマンライフシンポジウムの開催
平成29年10月	第7回企画・運営委員会(イベント成果と反省点の確認等、アンケート集計担当作業開始)
平成29年11月	第8回企画・運営委員会(全体報告、アンケート集計結果、次年度の企画検討)

(これまでの開催実績)

年月日	第○回	会場名	参加者数(人)(A)	係員数(人)(B)	総数(人)(A+B)
平成24年9月	第20回	エクセルホール	220	35	255
平成25年9月	第21回	エクセルホール	295	35	330
平成26年9月	第22回	エクセルホール	303	35	338
平成27年9月	第23回	みと文化交流プラザ	246	35	281
平成28年9月	第24回	みと文化交流プラザ	283	39	322
平成29年9月	第25回	みと文化交流プラザ	271	48	319

※ 係員数には、イベント当日の運営に係る職員(市職員、実行委員会、委託会社職員、ボランティア等)を含めてください。

(他市町村における類似イベントの実施状況)

市町村名	実施主体	イベント名	実施年度	参加者数(人)	係員数(人)	総数(人)	事業費(千円)	備考
土浦市	市直営	土浦市男女共同参画センターフェスティバル	平成29年度	106	25	131	134	市費, 土浦市女性団体役員会との共催
ひたちなか市	市直営	ハーモニーひたちなかフォーラム	平成29年度	112	13	125	234	市費, ハーモニーひたちなかと共催
日立市	実行委員会	男女共同参画をすすめるつどい2017	平成29年度	270	50	320	912	市補助金
笠間市	市直営	いいパートナーの日フェスタ	平成29年度	210	22	232	106	市費
つくば市	市直営	つくば男女共同参画会議「つくば・男女(みんな)のつどい2017	平成29年度	116	35	151	701	市費
茨城県	県直営	ハーモニートップセミナー	平成29年度	370	15	385	854	県費 参加対象者：企業の経営者, 参加者, 市町村長, 市議 人事担当者, 市町村長, 市議 会議長, 女性関連団体, 市町 村職員等

※係員数には、イベント当日の運営に係る人数(市町村職員, 実行委員会, 委託会社職員, ボランティア等)を記入してください。

(参加者へのアンケートの実施)

アンケート	有
	無

※ 有の場合は、アンケート結果を添付願います。

